

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒252-0321 神奈川県
相模原市南区相模台 1-23-9
Tel.&Fax.
042-748-8240
<http://www.jouhan.com>
E-mail:info@iki2life.com

1 月例会ご案内

1 月 10 日 木曜日 18:30 ~ 21:00

テーマ : 城野先生遺稿「経済摩擦と日本経済発展の秘密」

場所 : 港区商工会館

参加費 : 1000 円

担当 : 古川 彰久

城野経済研究所発行の「月刊脳力『脳力開発の理論と実践』」最終号：昭和 61 年 4 月号に掲載の城野先生遺稿、「経済摩擦と日本経済発展の秘密」を論題にし、30 年前と現在の日本経済について考えてみよう。

要旨

1. ちがいがわからねば協調はできない

(1) 経済摩擦：欧米の主張、すべて日本が悪い。輸出ばかりして、他国の品物を買わない。不当に輸出を抑えている。

(2) 日本の品物が外国に買われ。外国のものがそう入ってこないのは、外国の人が日本品を大歓迎しており、日本人の方では、外国製品よりも日本品の方が質もよく値段が安くいつでも手に入るからでしょう。

(3) 欧米と日本との社会体制の違い：欧米は人口の 10% ぐらいの大金持が富の 40% を所有しているといった体制。

(4) 日本の経済はいいものをたくさん作って安く売るとい根本にのっとり、欧米のような大きな上下の格差がなく大衆市場である。

(5) この東西の差異は当分つづくものとみねばなるまい。協調はその差異を残して行われるという限度がある。

2. 日本経済の解明は、欧米の「経済学」ではできない

(1) 戦後の日本は人口が増え土地は四つの島だけとなり資源は何もない。世界で最も貧乏になる条件である。そこで世界中の「経済学者」が、日本経済が戦前までに回復するには百年はかかるか永久に回復はしないという「予言」をしていた。

(2) ところがこの「予言」とは反対に数年にして日本経済は回復し、その後もどしどし

発展しようとう世界一に栄えた経済をつくりあげてしまった。欧米の「経済学」からいうとどうしてもこうなる筈はないのである。

(3) 日本人は戦後の経済発展の中でいくつも欧米の「経済学」で悪といわれていることを実行してそれを善に変えてしまっている。

(4) インフレとは欧米の経済学によれば物価暴騰で民衆生活はひどい苦しみを受け経済は崩壊してゆくという悪である。ところが、生産が爆撃その他でストップして極端な物資不足であった戦後の日本経済は、生産回復までの不足状態の継続をインフレという手段で少しずつ調節してゆきちゃんと回復して継続生産が発展するようにもっていったのである。インフレは消費規制として作用するとともに資金集中化と貸出資金の進出として作用したのである。こういうことをやってのけた経済は日本以外にないのである。

(5) 日本の国債は百兆円を越え日本人は赤ん坊に至るまで一人が 86 万円の借金を背負い、このままゆけば国債という借金はますますふえ、日本人は借金地獄に苦しみインフレは進行し生活は低下する。これがこれまでの経済学、財政学で説かれてきた国債亡国論である。日本の国債は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ四か国の国債の合計よりも多い。しかし、インフレにはならず物価は安定しており生産は発展し世界一の黒字国になっている。欧米大国の合計よりも日本の国債が多いのはそれだけ日本国民が資産に余裕あり、階級差別がなく上下のギャップの落差の少ない日本社会は国債という形での財産保全を全社会的なものにしてしまっている。

(6) 労働組合が勢力をもって賃上げをつづけると企業の利益が減り自己資金の蓄積が阻まれ経済発展を阻害するというのがこれまでの「経済学」の見方である。ところが日本では賃上げで何千万という国民の収入を豊かにし、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、自動車とあらゆる生活物資の需要を増大させ、松下、日立、東芝、トヨタ等大企業を育て上げた。

(7) 欧米の「経済学」の観点の束縛から脱出せねば日本経済発展の秘密はわからない。

11月例会報告

11月8日 木曜日 18:30～21:00

テーマ：山田方谷の戦略と戦術

歴史を踏まえ、日本再生に生かす知恵

場所：港区商工会館

担当：堤 金蔵

山田方谷の戦略と戦術

歴史を踏まえ、日本再生に生かす知恵

略伝 1805-1877 陽明学者

山田家は元武士であったが百姓として生計をたてていた。方谷は御家再興を願う夫婦の元備中松山藩内西方村に生まれる。

新見藩丸川松隠塾にて朱子学

15歳、両親亡くなり実家菜種油製造販売、夜自学、藩主板倉勝職より二人扶持にて藩校有終館で朱子学 藩校会頭 名字帯刀 山田家再興

佐藤一斎塾陽明学との出会い。塾頭

新藩主板倉勝静帝王学抗議 貞館政要

それ善く天下のことを制する者は、事の外に立つ、事の内に屈せず

義を明らかにして利を図らず。

藩政改没革の実行

藩主顧問として幕末の幕政にかかわる。

大政奉還の上奏文を作成。

松山城無血開城の決断する。

明治政権の招きを固辞、民衆教育に専念する。

閑谷学校再興す

明治十年六月二十六日没

1. 学問に志す 丸川松隠塾

菜種油製造販売 実学

藩校有終館会頭

寺島白鹿塾

佐藤一斎塾 昌平黌塾頭

2. 藩政改革

備中松山藩財政の把握

負債整理 大坂米蔵屋敷廃止、地元蔵より相場販売

藩札刷新 永銭発行 旧札大焼却インフレ藩札産業振興 鉄製品備中ぐわブランド品等々

上下節約政策

民生刷新改革

教育改革

洋式軍制改革

久坂玄瑞農民兵の訓練を視察

河合継之助との出会い

誠心より出づれば、敢えて多言を用いず。

友に求めて足らざれば、天下に求む。天下に求めて足らざれば、古人に求む。

3. 藩政に政治顧問で関与

幕府崩壊を予言

安政の大獄に反対する 生麦事件対処

老中の政治顧問として参勤交代政変に反対

藩主に帰藩を諫言するも入れられず

大政奉還の上奏文作成

鳥羽伏見の戦い 城明け渡しの決断 藩存続指導

4. 救藩と余生教育者

人は夢を持つことが肝心なり

されども夢を実現せんとすれば

先ず自ずから努力することを忘れるべからず

唯、必ず我が夢は叶うと信じるのみ

学問の道は誠意のみ。

進徳修業は、すべからく少年の時に及ぶべし。

総て学問は、気持ちをしっかり持ち、物事の

筋道を極め、努力することの三つなり。

治国平天下 大学

この世のなかをよくしたい

身男児たり、宜しく自ら思うべし、力なくなんぞ草木とともに枯れんや。

道徳の根源を極め大賢君子の境地を極めたい

寺島白鹿に学ぶ

蘭溪禅師と親交

陽明学者春日潜庵 致とは尽くすなり、極めるなり。良知は、生機の、条あり理ある名にして、気中の精霊なり。

陽明学者佐藤一斎の塾入門、

佐久間象山との出会い

君見ずや、万古の明鏡。一心に存するを。

長岡藩高野松陰との出会い

私塾牛麓舎

女性農民町民教育 士分取り立て

立志、遊芸、励行

洋学、国学その他

砲術戦陣火法

至誠惻怛 国家の為ににする公念より出づして、

名利の為にする私念に出づれば、たとい驚天動地の功業あるも、一己の私を為すに過ぎず。

真心と思いやりの心、しせいそくだつ

儒学

朱子学 性即理 人間の本性とは、存在根源を理王陽明の陽明学心即理致良知 格物 個の心が大事

ふみ見るも、鋤もて行くも、一筋の学びの道の歩みなるらむ。

進退はただ義の在る所、義の精微は心に在り、

迹に在らず、私心を去りて、本心を見る。其の唯検心工夫有るのみ
天に順ふて人道を尽くす其の道は大公のみ至誠のみ。
進退は、天を以て動け。天を先にすれば天違わず。

改革の環境

新藩主は養子、門閥家老の企画妨害
江戸において帝王学講義 貞観政要 創業の守成と相まって其業を成すや、春耕の秋穫と相まって其稼を成すに異ならず。
国家を治むるは、徳に非ざれば不可なり。才智の能く為す所に非ず。

1. 理財論

失敗の原因分析

財の内側に屈している

その対策

富貴の心

アクションプラン民間活力、庄屋ネットワーク、人材財の外に立ち大局観を持ち収支は一、二名の役人に任せる。
大義を明らかにする。

2. 擬対策問答集

問題提起

衰退の兆候とは

現状分析

武士の風紀の乱れ
借金まみれはなぜか

結論

賄賂の横行と役人のおごり
心の一つにして事態に真心で取り組み、指導する。
士農工商みとめる代わりに上位の責任を厳しく問う
藩主の大改革号令
私財公開
債権者の心をつかんだ借金整理、50年返済計画提示
備中松山藩の商社化
財を用いる兵を用いる、其の道一つなり。兵多きものは分け、数所に備え、兵少なきものは合わせて一手に囲む。
インフレ藩札の回収焼却、新藩札と交換
ベンチャー企業への変身
投資販売まで直営化、ブランドマーケティング
武士の意識改革と軍政刷新洋式兵器製造
新田開発
工場、河川、街道改修等雇用確保
地域産業の活性化 鉄製品、工場設置、たばこ、柚餅子等

幕政参加

幕府国政顧問として
藩主の国政進出への意欲
要職を得るための賄賂は出せません

政局対応

対応能力を失っている
多少の改革では間に合わない
解体の荒治療必要
よって火中の栗を拾うことになるので幕府要人は避ける

安政の大獄への対応

反対し寺社奉行罷免
再び国政顧問
首席老中のブレーンとして
大政奉還と藩の消滅
高梁藩再興
廃藩置県

教育者として

岡山閑谷学校再興 春秋出張講義
藩校
牛麓舎 長瀬塾 小坂部塾
学問所
教諭所
以上方谷の生き方は、他社への真心と思いやりの心で、人の幸せを願い実行する王陽明の遺志を実践されたのでしょう。
戦略と戦術。目的と方法

財務状況

収入 28500 両
費用 49300 両うち借入利息 13000 両
赤字 20800 両
他に借入金 10 万両——>
7 年で完済更に蓄財十萬兩

再生イメージ

松山藩——儉約令、賭博禁止、目安箱、酒接待禁止
撫育方、藩軍、藩校、学問所、教諭所、寺子屋、里正隊、米蔵救済蔵設置 47 か所
大坂——蔵屋敷廃止、コメ市場相場を見て出荷販売
江戸——江戸屋敷産業方アンテナショップ
備中鋤、釘製品販売

柔能く剛を制する理を知り、而して後以て世に処すべし、以て事に接すべし。以て人を治むべし。
自然の誠意より出でて、財を積み国を富ませば王道なり。
権謀術数を以て、国を富ませば覇術なり。

